

令和7年度

第6号

久美小学び通信

R. 7 6. 2 4 教務

育ちのバトンをつなぐ

～子ども未来課 萩下指導主事による校内研修～

6月19日は子ども未来課より萩下和栄指導主事に来ていただき、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とその具体について研修をしていただきました。幼児教育において「遊び」を通して『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を総合的に学んでいけることを理想とし、日々の保育を行っていることを教えていただきました。全員がやりきることが目的ではないため、できない時はまた次回にと、試行錯誤しながら繰り返しやっているため、子どもによって育ち方に違いがあるそうです。園所では、朝の職員会議で他の職員と遊びの「ねらい」を共有し、遊びの後の職員での振り返りまでを大切にしながら日々の生活で多くのしかけとなる言葉かけや環境整備をしていることを学びました。



小学生と園児との交流の際に、教師が指示したりすべて決めてしまったりしている場面と出くわし、せっかく育ててきた育ちのバトンがつながっていないと感じたこともあると聞きました。幼児教育との接続を重視する上で、幼児教育で何をねらってきたのかを小学校も知っておかないといけないなと感じさせられました。

研修では、道具をつなげて水をわたす遊びの様子やザリガニの飼育などの資料で見せていただきました。保育者は異年齢の子どもたちみんなが夢中になって遊ぶ中で、共感したり子どもの工夫や考えを導き出せるような声かけをしたりしながら、まさに「伴走者」のように関わっておられることを学びました。小学校と同様に幼児教育でも、ちょっとがんばったらできる実態に応じた目標の達成を積み上げていて、そんな経験を通して学びの基礎を培っていることを知りました。

幼児教育でやってみたいということを「できた!」「やった!」という経験が小学校でも大切にしている主体性や探究する姿につながるという言葉はとても印象的でした。そんな経験を子どもたちの育ちのバトンを小学校教育でも引継ぎ、主体的に探究できる子どもを育てていきたいと思いました。幼児教育と同じようにはできるわけではありませんが、小学校では限られた生活科の時間の中でも「教師が積極的にしかけていき、短い時間で遊び込ませる時間」にできたらよいですね。

25日は忙しい中、1・6年生に公開授業をお世話になります。授業を通して研究を深めていきましょう!

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿については京都府教育委員会のYouTubeでも紹介されているそうなので、興味のある方は見てくださいということでした。

<https://www.youtube.com/watch?v=iEJ4YdWiT6M>